

---

# 光の世界

藤森優斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

光の世界

### 【Zコード】

Z5684K

### 【作者名】

藤森優斗

### 【あらすじ】

『world peace orchestra』からそんなに

経っていないけど、今の自分が世界と生命に向けるささやかなラブレターです。ずっとですが、今回も歌詞として書いたものです。メロディーなんてついてないんですけど……。ガキの落書きだと思つて読んでください。

「明日は晴れます」そんな事どうでもいい  
今、僕が気にしてるのは信じもしない占いのランキング  
「素直になりなさい」そんな事言われたくない  
今、僕が探しているのは裏切られない為の裏切り方

テレビがなんか喋ってるぜ 僕に向けた言葉じゃない  
アイツがなんか喋ってるぜ 僕に向けた言葉だとしても  
聞く耳持たず振り、また寝たふり

『不思議』それが魔法

暮れ、明日を迎える意味をくれ  
ワンドーワールド、ワンドーランド  
もう喋んな、眠れねえ、眠れねえ、振り……。

「セツナイ恋うた」そんな歌には飽きたんだよ

今、世界が聴きたいのは生命を肯定してくれるラブソングだ

テレビがなんか喋ってるぜ

その二コース、本当に今の世界に必要か？

魔法にかけられた世界から

平和を唱える生命への

何世紀もの想いを込めたレクイエムだ

『不思議』漂う世界に

礼、明日を裏切る背中、無礼

嫌。怖くとも、魔法にかけられた世界に立つ

『不思議』 それが魔法

暮れ、明日を迎える意味をくれ  
ワンダーワールド、ワンダーランド  
黙つて吸え、呼吸を、呼吸の、振り……。

魔法にかけられた世界へ  
平和を唱える生命からの  
何世紀もの想いを込めたラブソングだ

## 天国アルバイト

サボらず頑張つてやつてんだろ　『人間』っていう仕事をさ  
毛布に包まつても、手首切つても　僕は僕なりに頑張つてんだろ

焦つて生きる程急いでないし　立ち止まつている訳でもない

愚痴ばかり垂らしても、血を流して　僕は僕なりに頑張つてんだろ

居心地が悪い世界だね　体調なんて毎日最悪だよ

どうにかしたいつて思つても

どうにもならないつて分かつてんだ

ダレても頑張つてやつてんだろ　『人間』っていう仕事をさ

苦しい思いをして、手首を切つて　それに似合う給料はないだろ?

居心地が悪い世界だね　体調なんて毎日最悪だよ

死んでみたいつて思うんだ

そう、思つてるだけさ……。

皆ご存知の通り、天国はバイト募集中です  
皆ご存知の通り、天国は人手不足なのです

僕達は何処で働けばいいのだろう

忙しい毎日だ。『人間』つてのは大変だな  
それでも、僕は僕なりに頑張つてんだろ

愚痴を垂らして、血を流して

いつか宣告される『クビ』を待とう

サボりながらも、汗を流して

いつか宣告される『クビ』を待とう

どうにかしなきゃならねえ、って呪だつて分かつてんだろう?  
でも誰かがやつてくれんだろ、って呪ずつと思つてんだろう?

だったら、僕がやつてあげる  
僕がこの国を背負うよ

だから皆、黙つて僕に従えよ

何すればいいかわかんねえ、って呪だつて思つてんだろう?  
でも誰かやつてくれんだろ、って呪せりぱり思つてんだろう?

だったら、僕がやつてあげる  
今から僕が王様だよ  
だから皆、頼むから、一人にしてくれ……。

優しい世界なんだ  
狂つた原因は隠してくれる  
優しい世界なんだ  
病の治し方も隠してくれる

なんとかしなきゃならねえ、って呪だつて思つてんだろう?  
でもなんともならねえ、って事、呪ずつと分かつてんだろう?

だったら、僕がやつてあげる  
ロックが世界を壊せる様に  
だから皆、詩の意味を知つてくれ

こんなもんじゃないんだよ

世界、僕がやってあげる  
こんなもんじやないんだよ  
世界、嘘がやる気出せばいい

## 生命のみぞ知る世界

『神様』なんて幻は誰も見た事がない  
得体の知れない者に僕等は縋るんだ  
『運命』なんて幻は誰も見た事がない  
奇跡的な地球上に生きる僕等なのだから

『世界』とは『地球』という意味ではない  
『世間』とは『世界』という意味ではない

それなら『世界』とは一体何なんだ？

僕を取り巻く景色は間違いなく『僕の世界』なのに

同じ星に生まれた生き物ですから  
これからも仲良くしましょう  
それが『平和』ってやつでしょ？  
その『平和』の中に『世界』は無い

『人様』という存在は悪者とされてきた  
『神様』という幻を作り出したのは人だから

『世界』とは『綺麗』という意味ではない  
『人様』とは『綺麗』という意味ではない

僕を取り巻く景色は綺麗だけど『僕の世界』じゃない

誰かが『神様』なんて産んだから、僕等は怯えて生きるんだ  
誰かが『人様』なんて産んだから、生物は怯えて生きるんだ

誰のみぞ知る世界？

『世界』とは『彼女』という意味ではない  
『僕等』とは『世界』という意味ではない  
同じ星に生まれた生き物ですから  
これからも仲良くしましょう  
『神様』が僕等を纏めるんだろう？  
それはただの宗教だよ

『平和』とは『綺麗』という意味ではない  
『神様』とは『生物』という意味ではない

## 生命不平等

味気無い日々に飽きたんだ 休息の無い日々に疲れたんだ  
花になれたらしいのにな 鳥になれたらしいのにな

くだらない世界に憲りたんだ 狂いかけた世界に疲れたんだ  
猫になれたらしいのにな 犬になれたらしいのにな

日々、『人間』という仕事に疲れた僕達は  
誰もが口を揃えて、こう言つんだ

「死にたい……」

さりげない幸せに苦しんだ 何気ない優しさに頼つてた  
人じやなればよかつたな 人じやなればよかつたな

日々、『人間』という仕事に疲れた僕達は  
綺麗な星空を見て、こう言つんだ

「死にたい……」

彼女に貰つた窓辺の花は氣付けば枯れて死んでいた  
学校に迷い込んだ一羽の鳥は子供の好奇心に殺された  
『クロ』と親しまれた黒い野良猫は公園の脇で潰れてた  
十年も大事に飼つた犬は最後の言葉も無しに死んでいた

日々、『人間』という仕事に疲れた僕達は  
誰もが口を揃えて、こう言つんだ

「死にたい……」

生命の不平等を知りながら  
疲れた僕達は、こう言うんだ

「死にたい……」

## Dead Girlfriend

「愛して……」 だとか、 なんとか言つちやつて  
本当の愛を知らない女子高生  
君達が見ている恋愛とは、 気持ちの触れ合いだり?  
何万通のメールで愛を語んじゃねえよ

本当に僕を愛してるなら  
永遠の愛を掴みにさ  
赤い糸を結んで、 一人逝こう

「ぐだらねえ」とか戯言言いやがつてさ  
馬鹿にしか出来ない単細胞な男子学生  
君達が見てる世界なんて、 米粒にも満たねえ  
女の子とのメールが全てじやねえよ

本当の世界を見てみたいなら  
閉じたままの瞼開け

希望と絶望の闇、 これが世界だ

ただのハツ当たりだつて知つてんだけど  
案外、 ハズレつて訳でもないだろ?  
『人それぞれ』 なんて分かつてんだけど

とりあえず、 世界を甘く見るな

彼氏と手を繋ぐ女子高生

それが羨ましいんだよ、 僕の彼女は死んだんだ  
世界を見ずに騒ぐ男子学生

それが羨ましいんだよ、 僕の世界は死んだんだ

僕の彼女は死んだんだ  
僕の世界は死んだんだ

## 部屋のドアを叩いたら

大好きだった恋人にフラれたんだ……。  
仲良しだった友達に嫌われたんだ……。  
そのドアを叩いたら、いこう  
僕を裏切り続ける世界に飽きたんだ

大切に守っていた想いは消えたんだ……。  
見ない振りした不安は溜めてたんだ……。  
そのドアを叩いたら、いこう  
僕を苦しめる世界に疲れたんだ

飽きたんだ  
疲れたんだよ

引きこもり、そのドアを叩いたら  
信用も苦しみも消え去るのしよう  
でも、この部屋のドアを叩いたら  
世界へと繋がる、生命が待つてんだよ……。

『世界』が僕の『世界』を無視し続ける事が気に入らない  
僕だって少しは努力してて、夢の一つも持つてるので

『世界』は僕を見てみぬ振り  
『世界』は僕を嫌っている

だから、僕の『世界』は四畳半にまで小さくなつた  
だから、僕の『世界』は膝を抱える程小さくなつた

そのドアを叩いたら、全てを亡へしてしまえるよ  
このドアを叩いたら、全てを受け止めて生きるよ

引かれりもつ、心はいつだつて  
引かれりもつ、そのドアを叩くなら

部屋のドアを叩いてみて

世界へと繋がる、生命が待ってるから

飽きていても  
疲れたとしても

## 平和戦争

虫達が暮らす世界の中には『平和』は存在しない  
花達が暮らす世界の中には『平和』は存在しない  
だからこの世の中に『平和』という言葉は存在している  
だからこの世の中に『戦争』という言葉が存在している  
だけこの世の中に『平和』という言葉は存在している  
だからこの世の中に『戦争』という言葉が存在している

僕等の世界の『平和』とはなんだ?  
僕等の世界の『戦争』とはなんだ?

鳥達が暮らす世界の中には『平和』は存在しない  
動物が暮らす世界の中には『平和』は存在しない

僕等が暮らす世界の中には『平和』は存在しない  
生物が暮らす世界の中には『平和』は存在しない

『平和』という言葉を生んで、殺していくのは誰だろ?  
『戦争』という言葉を生んで、生きていくのは誰だろ?

A song of the insects which yo  
u killed.  
A song of the animals which yo  
u killed.  
A song of the flowers which yo  
u killed.  
Did you listen to a love song  
to sound all over the world?

（貴方が殺した虫達の唄。貴方が殺した動物達の唄。  
貴方が殺した花達の唄。世界中に響くラブソングを聴いたか？）

悪いのは僕等なのだから生物達が『戦争』を起こせばいい  
人類が滅ぶ瞬間に『平和』は姿を現すらしい

そんな世界の中でしょ？  
僕等の世界の中でしょ？

## ハロー・グッバイデイズ

「ハロー。ねえ、聞こえてますか？ 世界の終わりを迎える君達」  
くだらない現代を乗り越える術を持ち合わせると願おう

「ハロー。さあ、出掛けましょう。世界の終わりを探す生物達」  
無差別に殺される生き物は僕等人類を恐れて生きています

手首切つて見上げる星空

素敵な明日に出会えるように……。

ハロー・グッバイ 世界の人達  
僕等は平和を唱えましょう

ハロー・グッバイ 世界の生物  
僕等は仲良く暮らしましょう

「ハロー。聞こえてますか？ 世界の終わりを望む君達」  
鳥の悲鳴も聞き慣れて、生命を食べて生きる人類よ

「ハロー。さあ、出掛けましょう。世界の終わりを夢見る人達」  
虫を殺すのにも慣れた、僕等人類が向かうのは天国じゃない

今夜も命を食べて眠るだけ

素敵な未来に出会えるように……。

ハロー・グッバイ 世界の人達

僕等は平和を唱えましょう

ハロー・グッバイ 世界の生物

僕等は仲良く暮らしましょう

人類が巻き起こす『生活』という『戦争』だ

犠牲者は誰だろう？ 森の中から悲鳴が聞こえる  
人類が巻き起こす『生活』という『戦争』だ  
犠牲者は誰だろう？ 青い地球が悲鳴を上げてる

ハロー・グッバイ 世界の人達

僕等は平和を唱えましょう

ハロー・グッバイ 世界の生物

僕等は仲良く暮らしましょう

ハロー・グッバイ 生物を殺す『戦争』の日々

ハロー・グッバイ 人類を殺す『戦争』の日々

## 最後の命

部屋が光る春の日々、桜の協奏曲

心臓の悪い少年は花びらと共に散っていく

黄色い月が笑う夜、星空の鎮魂歌

精神が弱い少女は流れ星と共に消えていく

眠れない夜に願う事

毛布の中、命の最後を見つめる  
『終わる』事が分かつてゐるから  
それがどうしても怖いんだ

ボロい病院の一室、点滴のメトロノーム  
明日を夢見る彼女は幻となつて夢に出来る

眠れない夜に願う事

暗闇の中、命の最後を見つめる  
『終わる』事が分かつてゐるから  
人は『死』を考え朝を見る

The end of World.  
We stop breathing and wait.  
When life is over, I will feel  
nothing.  
Because I looked forward to "t  
he end."

(世界の終わり。僕等は息を止め待つ。

命が終わる時、僕は何も感じないだろう。  
だって『終わり』を待ち望んでいたから。()

眠れない夜に願う事

手首にナイフ、命の最後を見つめる  
『終わり』が分かつてゐるのに  
何で、僕等は『死』を求めるの……。

命の最後に願う事

『もう一度生きたい』でも『ありがとう』でもない  
ただ何も感じない神経への鎮魂歌  
『終わり』は分かつてゐるのだから、それが怖い

## 記念碑に偽物の花束を

何十年も前に戦死した女の子達  
彼女達の為に造られた記念碑に花束を捧げる  
嘆泣にも慣れた僕達だから  
偽物の花束を彼女達に捧げよう

何時間か前に病死した子供の親  
幻になつた命を悔やんで涙を流すよ  
気持ちの切り替えは早い僕達だから  
二週間とすれば笑顔で暮らすよ

朝方のニュース、行方不明の女子高生  
もう一ヶ月も経つてんだから  
きっと死んでるんだろ……。

命の儂さを知つていくのに 命の尊さには鈍感な僕達だ  
テレビ出演が夢だつたんだろ 叶えたんだからいいじゃないか……。

五分後の僕はずつと死に近付いただろ  
三日後の僕はそつと死に手を掛けただろ  
終わる事を知つてる僕達だから  
頑張れる分、とても怖いんだ……。

夕方のニュース、バラバラ遺体の女子高生  
だから言つたんじやないか  
死ぬ事は予想つくんだよ……。

神様に縋るのが僕達の最終手段だ

生命を食べるのが僕達の生活習慣だ

嘘泣きにも慣れた僕達だから

全ての生命に捧げる偽物の花束

命の儂さを知つていいくのに 命の尊さには鈍感な僕達だから  
用意されたレールを歩く そして死に向かう平凡な人生だ

全ての生命に捧げよう

嘘泣きで贈る偽物の花束を

## 光の世界

昨日まで可愛い笑顔を見せていた女子高生  
翌日、海辺で骨と化して見つかった

我が子が殺された事を知ったお母さん  
同日、死刑囚と同じ死に方で亡くなつた

僕達が頼る神様は視力が悪いらしい  
屋上から舞う少女の姿が見えないのか

『生きている』という事が血を流す度分かる  
滲んで見えない景色、それが光の世界

『平和』から逃げて『戦争』を繰り広げる僕等  
先日、『世界』はバラバラ遺体で見つかった

僕達が頼る神様はもう死んだらしい  
愛情の地雷が敷き詰められた世界だから

『生きている』という事が生命を食べて分かる  
手首に包帯巻いた少女、それが光の世界

いつも僕等を騙す『希望』が此処にあるのだから  
いつか僕等を励ます『絶望』が底にあるのだろう

いつか終わる『命』を抱える僕等が今  
その事実を認めて生命を肯定するラブソング

『平和』という言葉の意味を知らないから  
『戦争』という生活の日々を繰り返してゐる  
『生きている』という事実と共に繋がる  
『死』を認めて生きる、足搔く姿、それが光の世界  
汚れながらも美しい僕等の姿  
終わりそななくらい素晴らしい光の世界

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5684k/>

---

光の世界

2010年10月10日17時36分発行